

十勝清水町への町名変更 における考え方について



鈴木 孝寿 議員

町長 企業との意見交換を丁寧に行い、支援を検討していく

問 清水町の認知度が全国的に低く埋没していることが明確に記された結果となった。これを踏まえ人口減少時代における持続可能な地域にしていくのが、明確な課題になった。今後、町民の判断となっていくところだが、判断材料については、町民にその情報の詳細を提示していくことが重要と考える。その上で調査結果が出た中で、以下を含め、町長の考えを伺う。

①十勝の名称を使うことに管内自治体の反応について

- ②清水町内の事業者及び団体の反応について
- ③現在寄せられている意見の内容について
- ④町民生活で現在考えられる問題点について
- ⑤特に規模の大きい企業における問題点について
- ⑥十勝清水町という名に変更した場合の最大のメリットについて伺う。

町長

管内自治体の首長と話をさせていただいた中で好意的なご意見をいただいている。また、町内J

A・商工会・観光協会等からは賛成し応援いただける意向を伺っている。今後は事業者の皆様には不安がないよう丁寧な説明をしていく。

団体懇談や地域懇談において好意的な意見が多く寄せられているが、一方で、かかる費用を道の駅等の施策に使うべきと

の声もある。

町民生活の中における問題点は、文字数が増える煩わしさがあるかもしれないが、住民票や戸籍、保険証、不動産登記表示の公的書類は官庁において変更処理をするため、大きな手間や問題をお掛けすることはないと考えている。特に大きな企業においては、住所表示や商品表示の変更に費用負担が発生する可能性があり、各企業と意見交換を丁寧に行い、支援を検討していく。

最後に、全国に多数ある清水という名称から十勝清水に変更する事により、北海道にある自治体としての認知度が向上し、魅力ある本町の生産物の価値を高め、移住定住やふるさと納税にも波及することが考えられ、町民が誇れる清水町となるためのはじまりとして考えている。

物価高への対応について

町長 生活者支援に加え、事業者支援も検討する

問

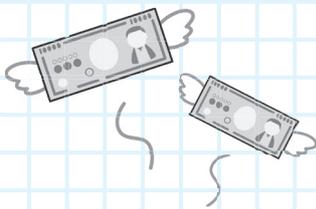
本年度、物価高対策として水道料金基本料の免除を行った。今般政府から物価高対策としておこめ券を含めた対策の補助があるが、町として今後どのような物価高対策をしようか伺う。

町長

物価高騰への支援を目的とした重点支援地方交付金の拡充が盛り込まれ

た中で、令和6年よりも増額される見通しである。その上で、生活者支援に加え事業者支援も検討したいと考えている。

水道料金基本料の免除も含め、種々の手法を検討していく。おこめ券については、様々なリスクも考慮し、おこめ券だけにとらわれることなく、食料品の物価高騰対策の事業を早急に検討・実施したいと考えている。



鈴木議員の一般質問全編





中河 つる子 議員

今後の除雪体制について

町長 町所有機械の計画的更新や免許取得支援などを検討する

中河議員の
一般質問全編



問

高齢化も進み、雪が降った時に

住民は除雪に苦労している。一方、除雪作業を委託されている業者も運転手の高齢化、人手不足などの中で、業務をこなしている」と聞く。

町は苦情の多い除雪に対応するために、今後も継続して除雪体制が維持できるように、若年者の雇用や育成について対策を講じる必要があると思うが、町長の考えを伺う。
(1) 町の除雪担当者における若年者の雇用と育成
(2) 委託業者における若年者の雇用と育成に対する助成

町長

町では、現在6名の職員で委託業者とともに除雪作業を行っており、町の除雪担当者の作業は、各路線の作業状況のレポート、業者が回りきれない路線や緊急対応部分の除雪、市街部や通学路等の歩道除雪、除雪が終了した路線の安全を確保するための拡幅除雪や交差点の処理作業、車両で

作業できない部分の手押し除雪機での作業、交差点部の滑り止めの砂散布となっている。職員の年齢は40歳代が1名、50歳代が3名、60歳代が2名で、作業免許保持者の確保が今後の課題となっており、現人員の意向等を確認しながら、人員の確保に努める。

委託業者における若年者の雇用と育成に対する助成については、現在9

社の業者が2つのブロックで企業体を組み作業を行っている。各業者とも作業機械の老朽化と人員の確保に苦慮しているのが現状である。このため、町では所有機械を計画的に更新し業者に提供していくことや、大型特殊免許取得費用の一部助成などを検討し、若年人員の確保等、持続可能な除雪体制づくりを進めていきたいと考えている。



除雪作業車